

読者プレゼント

天然の岐阜ジビエを堪能しよう！
「鹿のソーセージセット」を
プレゼント!!

今回の読者プレゼントは、ひとつひとつ丁寧に手づくりで仕上げた鹿のソーセージセット。「薬草カフェまるかる」と同じ揖斐川町にある「里山きらら」さんのジビエの商品です。セット内容は、以下のバラエティー豊かなソーセージ5種類です！



鹿のピアシンケン(写真:左上)

ピア(ビール)シンケン(ハム)＝ビールに合うハムという意味です。生地に混ぜ込んだ鹿肉の赤身が特徴で、ハムとソーセージの食感を一度に味わえます。

鹿のヤクトブルスト(写真:右上)

別名ハンティングソーセージ。絹引きの生地に鹿の粗挽き肉が練りこまれているリオナソーセージです。

左上から、鹿のピアシンケン、鹿のヤクトブルスト
左下から、鹿のフライシュケーゼ、鹿のエマルジョンソーセージ、鹿の粗挽きフランク

鹿のフライシュケーゼ(写真:左下)

腸に詰めずに型に入れて焼いて仕上げたソーセージ。そのままスライスにしたり、焼いてハムステーキ風にしてお好みでお楽しみください。

鹿のエマルジョンソーセージ(写真:中央下)

なめらかなソーセージ生地に粗挽き鹿肉を混ぜ込んだウインナーソーセージ。鹿肉ならではのあっさりとした味が特徴です。

鹿の粗挽きフランク(写真:右下)

エマルジョンソーセージの生地を、豚の腸に詰めた食べ応えのあるソーセージです。

大自然で力強く育った森のご馳走を、団欒のひとときに、笑顔がいっぱい広がる食卓の一品としていかがでしょうか？是非ご応募ください！
(「ジビエ&シャルキュトリー専門店 里山きらら」: <https://shop.satoyama-kisara.jp>)

応募方法：弊社HPからご応募ください。 <https://www.nbr.co.jp> 締め切り：2023年3月末

NBR Study Navi

最新のNaviはHPでもご覧いただけます。ご不明点等、どんなことでもお気軽にお問い合わせください！

NBR Study Navi 第73号 ミニプタ技術特集

今月のNaviは「ミニプタ技術特集」と題し、特殊な投与、採材及び検査などをご紹介します。ミニプタにおいて実施可能な技術ですので、是非ご活用ください。

NBR Study Navi 第74号 中枢神経系に関する薬効薬理試験

NBRでは、中枢試験の受託に長く取り組んできました。中でも認知症、パーキンソン病、うつ、不安などの評価は小動物で複数の評価系を有しており、目的に応じてご要望にお応えしてきました。今回は中大脳動脈再開通モデルについてご紹介します。

NBR Study Navi 第75号 NBRの医療機器試験

当社では、医療機器の試作品の評価から最終製品の承認申請のための『申請資料の信頼性の基準』や各医療機器のガイドラインやガイドダンスに基づいた『生物学的安全性評価:GLP』試験を実施しております。



●表紙コメント

岐阜県白川郷と石川県白山市を結ぶ白山白川郷ホワイトロード。県内では紅葉で有名なドライブスポットです。紅葉真っ盛りの時期にたまたま寒気が流入したため雪山になっていました。頂上付近が吹雪いて岐阜県側がしばらく通行止めとなり、氷点下の山中で数時間待機していた時に撮影しました。

弊社から見える伊吹山も雪で白くなり、かなり冷え込むようになってまいりました。皆様もお体にお気を付けてお過ごしください。

編集後記

前回に引き続き岐阜の製薬にまつわる話題 第二弾をお届けしました。薬草風呂に薬草カフェ、昔から薬草を上手に体に取り入れて健康を願ってきた人々の暮らしが見えてきます。寒い日はゆっくり薬草風呂に入つて、心も体もほかほかになりましょう。そして薬草を頂いて健康になりましょう。今後ともご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

弊社は「AAALAC International」の認証を取得しています。



弊社は、HS財団動物実験認定施設です
株式会社日本バイオリサーチセンター
<https://www.nbr.co.jp/>
〒501-6251 岐阜県羽島市福寿町間島6丁目104番地
TEL 058-392-6222(代表) FAX 058-392-2432

NBR Times

(株)日本バイオリサーチセンターの「旬な話題」を発信する、コミュニケーションマガジン
www.nbr.co.jp January 2023

みどころ情報

- 岐阜は製薬発祥の地?! 第三弾
～岐阜と薬草の縁は深い!～
～薬草カフェ まるかる～
～伊吹薬草の里文化センター Herb spa薬草湯～

◎読者プレゼント ◎編集後記 ◎NBR Study Navi

白山白川郷ホワイトロード

日本バイオリサーチセンターHP
<https://www.nbr.co.jp>



vol.037

岐阜は製薬発祥の地?! 第二弾

～岐阜と薬草の縁は深い!～



前号に引き続き、今回も『岐阜は製薬発祥の地(かも?!)』というセンセーショナルな(笑)話題をお届けします。前号では、飛鳥時代、天武天皇が美濃の国(岐阜地方)で僧にオケラを煎じて薬を作らせたことが、日本の製薬の始まりではないかという説をご紹介しました。さらに、織田信長が伊吹山に広大な薬草園を作らせたことから、伊吹山には今でもたくさんの薬草が自生していることをお伝えしました。そのことから、昔から伊吹山周辺では薬草文化が定着しており、今でも人々は薬草を大切にしています。今回は、その薬草に関する岐阜市の取り組みと薬草を提供してくれるカフェ、そして薬草に関する施設をご紹介します。

～岐阜市が取り組む薬用作物の国内生産～

日本の漢方製剤や生薬の原料となる薬用作物は、約8割を中国からの輸入に依存している状況です。これは、気候や土壌の栽培環境面、成分含有量などの品質面、そして価格面が関係しています。しかし近年、中国の輸出規制や中国国内での需要増加、乱獲などにより資源が減少し、輸入価格が上昇しており、国内需要拡大へのニーズが高まりつつあります。

岐阜県は、以前NBR Timesで紹介した通り薬草との関係が深く、岐阜薬科大学等の協力もあり、平成26年から薬用作物の産地化に向けて様々な取り組みを行っています。産地化に向け、「系統が明らかな種苗の確保」「栽培技術の確立」「企業ニーズの把握」「生産者の確保」「栽培優良農地の選定」「低い収益性」「技術の習得」など多くの課題と向き合い、現在は岐阜市薬用作物栽培協議会を中心に、キキョウ、カワラヨモギ、ジオウ、ミシマサイコ、ハトムギ等の薬用作物を岐阜薬科大学の助言を受け、栽培をしています。また、気候や土壌等を考慮した栽培マニュアルを随時更新し、岐阜市の公式ホームページにて公開しています。岐阜県は需要者に応えられるような一定品質や量の確保の為、栽培技術の確立と種苗の増産を進め、「岐阜モデル」としての薬用作物の産地化を目指しています。

カワラヨモギは防腐剤原料等として既にメーカーへの出荷実績があります。これは、カワラヨモギ抽出物を主成分としている柑橘類のカビの抗菌・増殖予防効果のある鮮度保持剤で農薬ではなく、食品添加物と分類されているため柑橘類生産地で需要があるそうです。他にもキキョウやミシマサイコは薬用として、ハトムギは食品用としての利活用を想定して産地化を進めています。

参考 / 岐阜市HP: <https://www.city.gifu.lg.jp/business/nougyou/1006000/1006002.html>



キキョウ
(生薬名キキョウ)
: 鎮咳去痰など



カワラヨモギ
(生薬名インテンコウ)
: 解熱、利尿、消炎作用など



ジオウ
(生薬名ジオウ)
: 補血、強壮、止血など



ミシマサイコ
(生薬名サイコ)
: 解熱鎮痛など



ハトムギ
(生薬名ヨクニニ)
: 滋養強壮、利尿、抗腫瘍作用など

～伊吹薬草の里文化センター Herb spa 薬草湯～

岐阜県内ではありませんが、薬草に関連する施設として、滋賀県米原市に「伊吹薬草の里文化センター」があります。伊吹山の麓にあり、施設からは雄大な伊吹山を目の前にみることができます。伊吹山登山に訪れた人たちが帰りによることが多いらしく、「伊吹山登山して薬草風呂に浸かり、伊吹山の写真を撮る」というルーティン組んでいる方もいるくらい、目の前にはっきり見ることができます。

さて、先ほど触れましたが、ここでは薬草風呂に入ることができます。ヨモギを中心に、センキュウ、チンピ、シャクヤク、ハッカ、ジュウヤク、トウキの7種の薬草を使用したお風呂です。効果効能は、冷感性、腰痛、あせも、リュウマチ、神経痛、疲労回復、湿疹、しもやけ、荒れ性とのこと。せっかく施設を訪れたので、実際に入ってきました。お湯は濁りのある緑色、薬草独特な匂いがしましたが、ぬるめのお湯のおかげで長く浸かっていました。お風呂から上がった感じ、肌はすべすべ、全身さっぱりして気持ち良かったです。これは登山や運動した後に入るとさらに気持ちがいいでしょうね。実際に運動後であろう格好をした人たちも見かけました。そんな薬草風呂、お家でも入ることができます。伊吹薬草の里文化センターでは、薬草の入浴剤を販売していました。お家のお風呂に薬草袋を浮かべて、少しもんであげるだけで簡単に薬草風呂の出来上がりです。このほか、薬草でつくったハンドスプレー、化粧水、保湿クリームなども販売しており、薬草を楽しむ施設でした。



施設から見える伊吹山

2023年の春スタートの連続テレビ小説「らんまん」の主人公は牧野富太郎がモデルです。日本植物学の父ともいわれ、伊吹山にも何度も訪れたとのこと。来年は伊吹山が脚光を浴びるかもしれませんね。

米原市伊吹薬草の里文化センター
<https://joyibuki.info/facilities/>
滋賀県米原市春照37



いぶき薬草湯

施設内で売られている薬草湯の入浴剤

～薬草カフェ まるかる～

古くより薬草で自分を守る文化がある伊吹山麓の揖斐川町春日地区に「薬草カフェまるかる」があります。親から子へ代々引き継がれてきた薬草文化を守り、広く知ってもらいたいという思いから開業されたそうで、このお店では「薬草を使った料理と香りの空間」を五感で楽しむことができます。

様々な種類の薬草茶、薬草を使ったスイーツ、ランチではせいろ蒸しや天ぷら、薬草カレーなどをいただくことができます。お店で提供している薬草はすぐ近くの山で栽培採取されているそうです。



薬草カフェ まるかる外観

【薬草文化に触れられる健康志向のランチ】

ランチでは「まるかる膳ランチ(左)」と「薬草カレー(右)」をいただきました。セットで付いてくる百草茶も一緒に飲むことができます。初めて薬草を食べましたが臭みもなく、体に良いのはもちろんですがその美味しさに驚きました。

近くに柏川が流れており、窓から山の景色や川の流れを眺めながら食事ができます。薬草を使った美味しいお食事に心も体も癒されます。店内には、薬草についての写真や多くの資料が置かれています。様々な種類の薬草茶や前回の読者プレゼントである「岐阜コーラ」も販売されていて、お土産として買うこともできます。



「まるかる膳ランチ(左)」と「薬草カレー(右)」



店のすぐ近くを流れる「柏川」

【お店で飲める薬草茶】

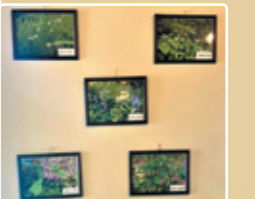
お店では百草茶、よもぎ茶、どくだみ茶、かきどし茶、イブキジャコウソウ茶、くろもじ茶、ナギナタコウジュ茶、イブキトウキ茶、スギナ茶、ゲンノショウコ茶、メハジキ茶の11種類の薬草茶を添え菓子と一緒にいただくことができます。美味しく身体にいい薬草をいただきながら、薬草のことをちょこっと勉強してみるのはいかがでしょうか。



「まるかる膳ランチ(左)」と「薬草カレー(右)」



岐阜コーラ

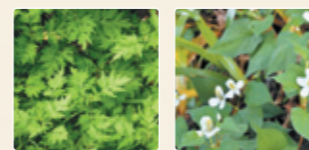


薬草についての写真や多くの資料

薬草カフェ「まるかる」

営業日/土曜日・日曜日 営業時間/9:00~16:00

住 所/岐阜県揖斐郡揖斐川町春日六合3068



よもぎ



どくだみ



かきどし



イブキジャコウソウ



くろもじ



ナギナタコウジュ



イブキトウキ



スギナ

●百草茶:

伊吹山の麓で育った薬草のブレンド。調合した薬草は「百草」と呼ばれます。春日には各家庭が独自にブレンドした百草茶を飲む習慣があり、味・香りを楽しみながら未病を願います。

●よもぎ茶

よもぎ:草餅や草団子に入れることから別名モチグサ(餅草)とも呼ばれています。春に摘んだ新芽を茹で、おひたしや天ぷらにして食べることもできる昔から馴染み深い薬草です。漢方で、葉は艾葉(かいよう)といわれ、止血薬として用いられます。「艾」とは「疾(やまい)を艾する(止める)」の意味であるとされています。若い芽や株は、干したのちに煎じて飲むと腹痛、下痢、貧血、冷え性などに効果があると昔から伝承されています。東洋医学では寒さを除き身体をあたためる、「散寒」の働きがある生薬と知られています。日本ではよもぎを入れた「よもぎ湯」が春の薬湯で、冷え性や腰痛、かぶれや切り傷などに効くと愛されてきました。

●どくだみ茶

どくだみ:ゲンノショウコ、センブリと並ぶ「日本の三大薬草」と言われています。ドクダミは10の薬効があるという意味で「十薬(じゅうやく)」という生薬名があります。解毒薬として有名で、蓄膿症などでは薬の汁を鼻に入れて治療していました。ドクダミの葉は乾燥させると、揮発性成分のデカノールアルデヒドが分解されるため、殺菌効果が失われますが、乾燥ドクダミ(全草)にはフラボノイド成分であるケルセチン、ルチンやケルシトリンが含まれており、通便、降圧、利尿作用を目的としてドクダミ茶が飲まれています。漢方でもわずかに用いられ、五物解毒湯などの処方にも配合されます。食用として、てんぷらなどにも用いられ、東南アジアの一部ではサラダとして生の葉が使われています。

●かきどし茶

かきどし:生薬名は連銭草(れんせんそう)。春日では葉の特徴より「丸草」と呼ぶ人も。ツルが伸びて垣根を通り抜ける事から「垣通し」と呼ばれるようになりました。指でつまむとさわやかな香りがします。脂肪燃焼や血糖値を下げる効果があります。

●イブキジャコウソウ茶

イブキジャコウソウ:伊吹山に多く自生し、ジャコウの様な香りがするのでこの名前が付けました。総称はタイム。別名百里草(百里先まで香る)とも言われ、料理のスパイスとしても利用されます。

●くろもじ茶

くろもじ:生薬名は烏樟(うしょう)。緑色の枝に黒い文字のような模様が現れる事から「くろもじ」と呼ばれています。枝は精油があり、上品に漂う香りの良さから浴用としても利用され、高級料亭や茶席などでは「ようじ」として使われています。健胃、整腸、お酒の飲みすぎに。

●ナギナタコウジュ茶

ナギナタコウジュ:生薬名は香薷(こうじゆ)。秋に咲く花穂が薙刀の様に片面だけに付きます。薄荷と紫蘇を合わせたようなすっきりとした香りがします。中国の「こうじゆ」という薬草に似ていることから「ナギナタコウジュ」と呼ばれます。お茶を濃くしてマウスウォッシュとしても使用できます。

●イブキトウキ茶

イブキトウキ:名前の由来は、昔、妻が婦人病になったため夫が家に帰らなくなり、トウキを飲んだところたちまち病が全快しました。そこで妻が夫に「夫よ、当(まさ)に我が元(もと)に帰るべし」と言ったことから「当帰」の名が付けました。肩こり、生理痛に効くとされています。

●スギナ茶

スギナ:多年草で栄養基は「すぎな」、胞子基は「つくし」と呼ばれています。根が深く、痩せた土でも生えるほど生命力が強いため「地獄草」の別名を持ちます。ヨーロッパでは栄養価が評価され、特にドイツではハーブティーとして親しまれています。骨粗鬆症、アトピーなどに良いとされています。